

平成21年12月3日

成瀬ダムをストップさせる会
代表 奥州光吉 様

雄物川水系・成瀬ダム建設促進期成同盟会
会長 横手市長 五十嵐忠悦



公開質問状に対する回答について

平成21年11月24日付けでいただきました質問状の各項目について、以下のとおり回答いたします。

記

- (1) 当同盟会の住所・連絡先・発行責任者について記載がなかったことは初歩的なミスであり、配慮が足りなかったことをお詫び申し上げます。
なお、リーフレットの配布にあたりましては、成瀬ダム建設促進の政策を進める立場から、広報と同時とさせていただきます。
- (2) 平鹿平野地区では、営農機械の大型化等により短期に集中して行われるようになった代かきの期間や河川水量の減少する出穂期において、農業用水が不足していると認識しております。
減反が3分の1以上に及んでいるとのご指摘ですが、減反（生産調整）は休耕や畑作への転換だけで行うものではなく、加工米や飼料米・米粉米など主食用米と同様に水を使う作物への転換によっても行われています。
- (3) ご指摘の写真は、リーフレットの添え書きどおり「成瀬川と皆瀬川の合流箇所付近」の皆瀬川の写真であり、増水時のイメージとして当該写真を掲載したものです。お尋ねの水位が成瀬ダムによってどれほど下がるかを示す資料は、当同盟会では持ち合わせておりません。
雄物川流域の治水上の安全性向上のためには、無堤地区の解消や河道掘削等に加え、成瀬ダムによる洪水調節を含めた総合的な対策が有効であると考えております。
- (4) 国営平鹿平野農業水利事業により老朽化した水路が改修され、通水能力は改善されると思います。なお、併設型水路は、これまで上流地域優先で取水されてきた用水を、下流地域にもできるだけ配水しようとする施設です。
平鹿平野地区では、そもそも用水自体が不足しているので、併設型水路ができてとも用水不足は解消されません。そのため、成瀬ダムに安定した水源を求める計画としております。安定した用水が確保されることで、併設型水路の機能も発揮されると考えております。

(5) これまで、それぞれの地域内で水道水源を確保すべく調査等を実施しておりますが、他に良好な水源が見つからず、水源を成瀬ダムに依存することとし雄物川からの取水を計画しております。

横手川からの取水による水道事業区域においては、大松川ダムの利水により渇水期でも安定した水量が確保されており、今後給水区域の拡張を検討しております。

(6) 県政に対するご質問と考えられますが、当同盟会では、上記(1)～(5)に記載のとおり治水・利水の両面から成瀬ダムが必要との認識のもと建設促進を求める活動を進めているところであり、ご理解のほどお願いいたします。

【お問い合わせ先】

雄物川水系・成瀬ダム建設促進期成同盟会事務局
横手市十文字町字海道下7番地
横手市建設部建設監理課 担当：佐藤
電話 0182-42-5112